

氏名	河 原 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 7 3 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和39年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	白血病の治療と臨床骨髓組織培養
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 妹尾左知丸 教授 小 坂 淳 夫

学 位 論 文 内 容 要 旨

白血病の治療を行なうに当っては、各種抗白血病剤の治療効果判定基準並びに治療目標の適確なものを得ることが極めて重要な臨床上的の問題であると考え、臨床骨髓組織培養法によってこの研究を行った。主として、白血病に特有なる増生様式が治療による緩解と共に如何に変貌するかを観察した。その結果、その増生様式の変化が最も端的に抗白血病剤の治療効果を反映するものであることを知った。更に生体染色によってこれら骨髓細胞の細胞学的変化を追求したところ、治療後の緩解時にも白血病はその細胞学的特徴を保持していることが明らかとなった。又、骨髓巨核球の機能をも併せ検討することにより、白血病の治療に当っては急性白血病の場合は増生様式が正常型変化を、慢生白血病の場合は低形成型変化を目標として治療を行ない、慢性白血病においては低形成型に至るや直ちに投薬を中止して、経過を観察するのが最も良い方法であるとの結論を得た。

(昭和36年9月 日本内科学会雑誌 第50巻第6号に掲載)

(昭和36年12月 岡山医学会雑誌 第73巻10, 11, 12合併号(803号, 804号, 805号)に掲載)

論文審査の結果の要旨

河原徹提出の「白血病の治療と臨床骨髓組織培養」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

白血病に特有な骨髓増生様式は、化学療法による白血病の緩解と共に、順次白血病型、中間型、正常型及び低形成型に変貌して行く。これら4型と各種臨床所見との間には密接な関係が認められ、骨髓像及び末梢血液像は白血病型より中間型を経て正常型に向うにつれて大体において正常値に接近している。従ってこの増生様式の変化が最も端的に抗白血病剤の治療効果を反映する。

また、増生様式が正常型及び低形成型の場合と雖も、生体染色によって他種血液疾患と細胞学的に鑑別することができる。更に、慢性白血病では、骨髓巨核球の機能は低形成型で増加するが出現数の減少が甚だしい。

以上の結果から白血病の治療に当っては、急性白血病では正常型変化を目標として治療を行ない、正常型に達したならばこれを保持する様にし、慢性白血病では低形成型を目標とし、低形成型を認めると直ちに投薬を中止して経過を観察し、正常型に復したとき投薬を再開するのが最もよい治療法であると述べている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。